

行政視察報告

文化複合施設整備特別委員会

当委員会では、総合長期計画や東青梅1丁目地内諸事業用地等利活用構想に記されている市民ホール等の複合化施設を整備していくに当たり、様々な施設の視察を通して、ホールの建設・運営に係るコスト面の問題等、今後の議論に必要な見識を広げていくため、調査、研究を進めている。

今回の視察先は、富山県富山市にある可動式客席を持ち、多目的に使用できるブラックボックス型ホールを有する文化施設「オーバード・ホール（中ホール）」、同じく富山県の立山町にある本年1月から供用開始となった防災センターと児童館の複合施設「アカリエ」、駅と一体となった、健康センター等の保健福祉分野、図書館、交流センターの複合施設「みらいぶ」と、様々なジャンルの施設3つを選定し、それぞれの施設の内容や運営手法等について、視察することとした。

視 察 地 富山市芸術文化ホール オーバード・ホール（富山県富山市）

立山町防災児童館複合施設 アカリエ（富山県立山町）

立山町元気交流ステーション みらいぶ（富山県立山町）

視察期間 令和7年2月3日（月）～4日（火）

視察事項 複合施設という観点及び執行部の考えに基づき、平土間式（中ホール）の音響や可動式客席および複合施設の運営手法や組織形態等について調査、研究するため

参 加 者 （委員長）寺島 和成、（副委員長） 鴻井 伸二

（委 員）中野 芳則、井上たかし、片谷 洋夫

阿部 悦博、山崎 勝

（随 行…石高主査）

（執行部…文化複合施設等整備担当：森田主幹、村田主査）

欠 席 者 （委 員）長谷川真弓（緊急の要件により、急遽欠席）



【富山市芸術文化ホール オーバード・ホール（富山県富山市）】

1 オーバード・ホール（中ホール）の施設概要

(1) 所在地：富山県富山市牛島町9-17

(2) 建物概要（構造等）

ア 敷地面積：4,472.07 m²

イ 建築面積：3,529.40 m²

ウ 延床面積：6,840.63 m²

エ 建築構造：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
最高高さ 22.14m

オ 階 数：地下1階、地上4階

(3) 主な施設

階数	主な設備
4 階	ホール客席（81席）
3 階	ホール客席（111席）
2 階	ホール客席（98席）、楽屋（大・中）、練習室1～3
1 階	ホール客席（362席）、楽屋（大・中）、ウォーミングアップ室、音楽鑑賞室、事務室 他

(4) 運営体制：指定管理による運営（公益財団法人富山市民文化事業団）

(5) 開館時間：午前9時から午後10時まで

(6) 休館日：年末年始（12月29日から1月3日まで）



中ホール外観



隣接する大ホール

2 設立経緯等

芸術文化ホールのさらなる活性化を図るため、平成26年度に市が設置した「富山市芸術文化ホール活性化検討会議」において、ハード面からの活性化という観点で「中規模のホールの整備の検討」が掲げられ、「演目の幅がより一層広がり、利用が促進されるよう、富山市芸術文化ホール大ホールの北側市有地の活用も含めた中規模のホールの整備について検討されたい」との意見があったことを受けて、「第2次富山市総合計画」等を通じてその整備方針が示された。

その後、中規模ホール整備基本構想において、施設の構成と機能、さらに施設整備と管理運営の考え方等の整理を行い、「大ホールと連携し、市民の芸術文化活動の充実に資する施設」、「多様な芸術文化に親しむことができる施設」、「市民ニーズに合った、市民が使いやすい施設」を基本方針とし、PFI事業により、富山市芸術文化ホール中ホールの整備（令和5年3月31日竣工）を行った。

また、施設の規模などについては、上記の検討会議から中規模であることや、演目や市内にあるホールの規模を勘案し、基本計画や要求水準書に定めている。基本計画は案の段階で幅広い方々に意見をもらうためホームページで公開して意見を募り、その時には意見はなかったものの、実施方針や要求水準書の案の公表段階で意見や質問を募ったところ、施工者以外にも利用者と思われる方々から意見が出てきたことから、市は可能な限り要求水準書等の変更を行うほか事業者決定後についても協議を行い反映させてきた。

なお、PFI事業に至った経緯については、市の基準では施設建設費等にかかる事業費が10億円以上となる場合にはPPP/PFI事業の検討が必要であり、従来方式による建設やリース契約等の比較検討を行った結果、PFI事業により事業を進めることとなった。事業内容は既存施設の解体、設計、施工、工事監理、施設（土地建物）の維持管理、清掃とし、運営については、大ホールが昭和57年から現在の指定管理者である富山市民文化事業団（当時は管理委託制度）に施設の運営を任せていた経緯があり、中ホールも合わせて運営してもらうこととしたことから、PFI事業の対象外としている。

また、敷地全体に対し、中ホール整備で必要とする敷地面積が半分以下となることから、余剰地を売却し、民間付帯事業と一体的に実施することで余剰地の最適活用を図り、敷地全体の魅力向上に繋げている。

3 イニシャルコスト及びランニングコスト

(1) イニシャルコスト（建設費）

- ア 工事費（既存施設解体及び杭撤去費）：243,463,000 円
- イ 工事費（施設整備費）：6,033,359,200 円
- ウ 維持管理費等（15 年間。割賦手数料含む）：1,552,689,126 円
（国や県補助金等の充当なく、すべて一般財源）

(2) ランニングコスト（令和 5 年度実績、大ホール含む）

- ア 管理運営事業：484,380,938 円
- イ 自主事業：207,741,329 円

4 年間稼働率と利用者数（令和 5 年度実績）

施設名	貸出可能 日数 (日)	貸出日数 (日)	稼働率 (%)	入場者数 (人)	使用料 徴収金額 (円)
◎大ホール	255	161	63.1	141,824	44,350,437
◎リハーサル室	255	70	27.5	-	223,500
◎ハイビジョンシアター	359	85	23.7	2,567	293,250
中ホール	245	150	61.2	29,866	8,625,830
ウォーミングアップ室	245	17	6.9	740	110,500
楽屋・ホワイエ	245	20	8.2		292,500
練習室	245	36	14.7		113,530
音楽鑑賞室	245	11	4.5		80,390
合 計					54,089,937

※◎は大ホールの施設。

※中ホールは、令和 5 年 7 月 1 日開館のため貸出可能日数が 245 日。



楽屋にてオーバード・ホール指定管理者及び富山市担当職員から説明を受ける委員

5 主な特色・特徴

(1) 中ホール

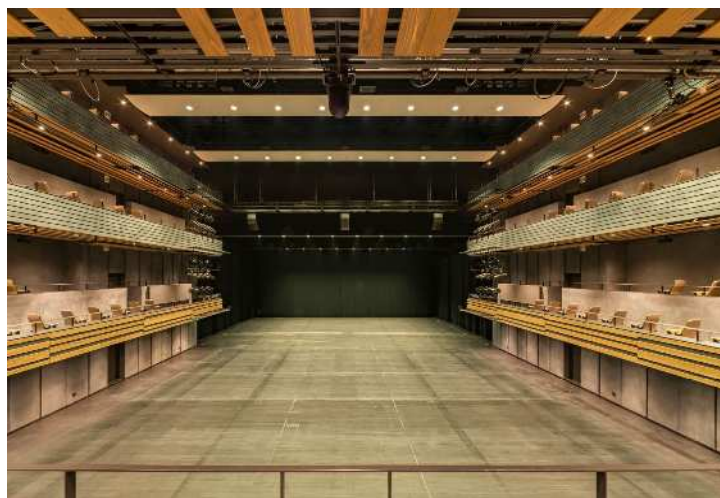
最大 652 席の可動式客席を備えた「オーバード・ホール／中ホール」は、ジャンルや演出の可能性を広げ、演劇、コンサート、ファッションショーなど多目的な用途に対応ができる。（1 階席 362 席、2 階席 98 席うち親子席 4 席、3 階席 111 席、4 階席 81 席）

また、隣接するオーバード・ホール／大ホール（2196 席）と一体となり、日常の暮らしの中で、子どもから大人まで気軽に集える“ちょうどいい”ホールをコンセプトとしている。

利用例① 通常形式

最大 652 席、4 層からなるすり鉢状のホールは、舞台と客席が近く、演者の表情や息遣いまでダイレクトに伝わり、生声が客席にしっかり届く、明瞭で聴きやすい音響設計となっている。

演劇やダンス、演奏会のほかトークショーなど幅広い用途に利用できる。



利用例② 平土間形式

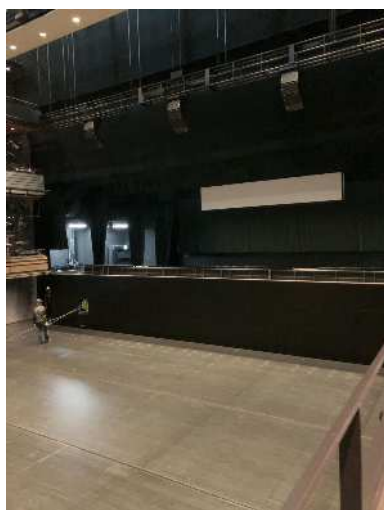
可動式の客席が壁面及び地下に収納されると、平土間空間へ変わる。さらに客席後方のスライディングウォール扉を開くと、ホールとホワイエが一体となり、最大約 20m×50m の大空間として利用できる。

なお、備品の平土間用シートを使えば、ホール内での飲食を伴う演奏会などのイベント開催も可能。

平土間形式から通常形式への舞台転換



①座席はコンパクト



②専用の装置で引っ張る



③ホールの後ろへ移動



④最後部に配置



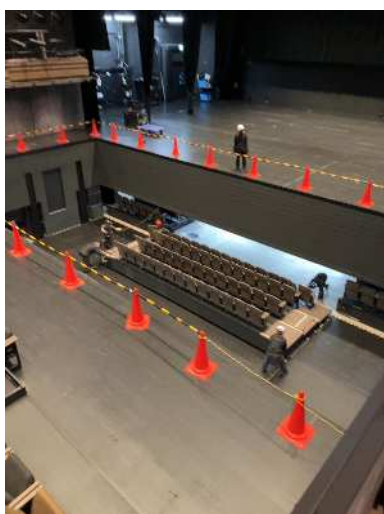
⑤下から座席が出てくる



⑥背もたれが上がる



⑦残りは地下に収納



⑧舞台ごと上げる



⑨背もたれを立てて完成

利用例③ センターステージ

昇降する床や可動式の客席を組み合わせることで、センターステージを設けることができる。

ブレイクダンスやバンド演奏など、演者との距離がさらに近くなるため、どの席からも迫力あるステージが楽しめる。



(2) ホワイエ

ホールで公演のない日は、ホワイエや楽屋の単独利用も可能となっている。

木の温もりを感じる開放的な吹き抜け空間で、備品のプロジェクターを使えば、壁面の 250 インチスクリーンに投影ができる。



ホワイエ

(3) ウォーミングアップ室

本番前の練習だけでなく、公演のない日はウォーミングアップ室単独での貸出もできる。

また、スライディングウォール扉を開放することで、ロビーとつながり、一体的な空間としてワークショップなどにも利用できる。

防音、防振構造でバレエ用のレッスンバーやミラーが設置されており、キッズダンススクールやバレエ教室のほか、合唱サークルの練習にも利用されている。



ウォーミングアップ室

(4) 練習室

防音、防振構造の練習室が3室あり、バンド仲間とのセッションや合唱の練習、ヨガレッスンなど様々な用途で使用されている。

また、ガラス張りの開放的な空間となっており、集中したいときはロールスクリーンで視線を遮ることも可能。



ガラス張りの練習室

(5) 音楽鑑賞室

高品質なオーディオ機器やスピーカーを備えており、すぐそこに演奏者がいるような、圧倒される高音質を楽しむことができる、ラグジュアリーな鑑賞空間となっている。



オーディオ機器



音楽鑑賞室

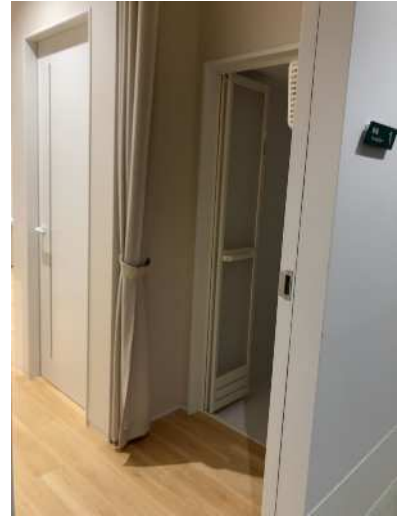
(6) その他、様々なアイデアと工夫



残響時間を調節する移動式反射板



女性トイレは混み合わないよう一方通行



楽屋（左：ドライヤー用のコンセント、中：ホールが確認出来るモニター、右：シャワー）



搬入口（左：トラック用の機材搬入口、右：楽器等の移動に支障が無いように段差を解消



文化複合施設整備特別委員会の委員（オーバード・ホール：平土間形式及び通常形式）

【立山町防災児童館複合施設 アカリエ（富山県立山町）】

1 アカリエの概要

(1) 所在地：富山県中新川郡立山町前沢 2385

(2) 建物概要（構造等）

ア 敷地面積：8,177 m²

イ 建築面積：2,099.10 m²

ウ 延床面積：1,497.04 m²（車庫・倉庫除く）

エ 建築構造：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造

オ 階 数：地上2階建

カ 主要用途：防災センター

（部分用途：防災センター、集会場、児童福祉施設、自動車車庫）



(3) 主な施設

階数	主な設備
2 階	ネット遊具、ロフト（緊急避難スペース）
1 階	（防災センター）多目的ホール、会議室、防災スタッフ詰所 他 （こどもホーム）遊戯室、乳幼児室、集会室、図書スペース （その他）屋外遊具

(4) 運営体制：施設管理者（一般社団法人立山子育て支援センター）

(5) 開館時間

ア 防災センター：午前9時から午後6時まで（土日祝は午後5時まで）

イ こどもホーム：午前10時から午後5時まで

(6) 休館日：年末年始（12月29日から1月3日まで）

2 設立経緯等

立山町では、人口減少及び公共施設の老朽化に伴い、総合計画をはじめとした各種計画において、町の中心部として都市機能の集積をコンパクトに図りながら定住を促進するまちづくりを進めており、その中で町民会館（建替）、子育て支援センター（移転）、水防拠点施設倉庫（一部移転）、町役場庁舎（建替）の再配置整備事業を重点プロジェクトと位置づけている。令和3年9月のプロポーザル方式での契約後、令和3年10月から令和4年7月で基本設計、令和4年9月から令和5年9月で実施設計の後、令和5年9月から2年間で施工し、今般、令和7年1月10日に立山町防災児童館複合施設「アカリエ」が竣工となり、今後は新庁舎の建設を予定している。

建設に当たっては、基本設計や実施設計と並行して、暮らしにプラスとなる交流施設を考える数十回にわたるワークショップや、多くの子どもから大人までのニーズを掴むためにシールアンケート（2,056枚の回答）やヒアリングを実施し、「ソフト（使い方）」から考え、「ハード（建築）」に落とし込むことで完成後の管理運営へ反映させている。また、施工段階では、レンガにアートを描く施工ワークショップを3回開催し、完成した726個の作品は、施設の回廊の舗装の一部に活用され「みんなでつくるアート作品」になっている。

施設について、「防災センター」は、災害時に町の拠点避難所となり、町職員の活動拠点となるほか、平常時には可動席による最大350名のホールとして講演会や演奏会などを開催することができる。また、「こどもホーム（児童館）」は、屋内外の遊具により幅広い年代の子どもたちに天候に左右されない遊びを提供できるものとなっている。なお、地中熱空調等の先進的な省エネ設備と太陽光発電による創エネ設備により、施設のエネルギー消費量が実質ゼロとなり、北陸の公共施設として初めて「ZEB」（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の認証を受けている。



説明を受ける委員

3 イニシャルコスト

(1) 事業費（建設費）

ア 建設工事費（太陽光発電・地中熱空調設備工事含む）：1,562,997,700 円

イ 委託料（設計・監理業務）：67,324,400 円

ウ その他（附帯工事、備品等）：177,264,054 円

（財源として、国庫支出金、公共施設等整備基金及び地方債を活用）

(2) 国庫補助等、地方債

ア 地域脱炭素移行・再エネ推進交付金〔環境省〕：363,549,000 円

イ 次世代育成支援対策施設整備交付金〔こども家庭庁〕：17,424,000 円

ウ 富山県児童館整備事業費補助金〔富山県〕：17,424,000 円

エ 木の香るとやまの街づくり事業補助金〔富山県〕：1,000,000 円

オ 地域活性化事業債：110,560,000 円

カ 公共施設等適正管理推進事業債：142,550,000 円

キ 緊急防災・減災事業債：549,262,000 円

4 主な特色・特徴

(1) ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）

省エネと創エネにより、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにする建物となっている。主な設備として、省エネ設備では、年間を通して一定の温度となっている地中熱を活用した不凍液を循環させた輻射パネルによる空調および床暖房、創エネ設備として、屋根の上に太陽光発電 140kW（パネル352枚）を設置し、年間約200万円の電気代を節約しながら余剰電力を蓄電している。

(2) アカリエホール

可動式座席を活用し最大350人を収容でき、昇降ステージもある。通常時は大きなエア遊具を設置し、子育て世代のニーズに応えた遊び場となっている。また、災害避難時は200人を収容できる避難所となる。

(3) 防災詰所

通常時は詰所として利用するが、災害時には災害対策室として使用し、職員の活動拠点となる。

(4) 様々な屋外防災設備

災害時に使用するマンホールトイレ、30mの井戸掘削により災害時の生活水を確保する防災井戸、蛇口を付けることで給水所としても機能する災害給水栓およびテント・炊出しスペース等、様々な設備が整えられている。

(5) こどもホーム（児童館）

遊戯室、集会室、乳幼児室、図書スペース等には、県産スギの滑り台を含め多くの遊具が整備されているとともに、床暖房も温かく幼児用のシャワー室や授乳室もあり、幅広い年齢の子どもたちが楽しく安心して過ごせる空間となっている。また、児童館は乳幼児や高齢者などを対象とする福祉避難所となっている。

(6) 仕掛け満載のネット遊具と木製遊具

2階には全長17mある、立山の雲海に見立てた2層構造のネット遊具と山小屋をイメージした滑り台やボルダリングが楽しめる木製遊具があり、合わせて50人近くが遊べるほどの広々とした空間となっている。

(7) 屋外遊具

施設の外には、児童向けエリアと乳幼児エリアの2つのエリアを設け、それぞれに立山黒部アルペンルートのロープウェイや黒部ダム等、観光スポットをイメージした大型遊具が配置されている。



最大 350 席のホール仕様



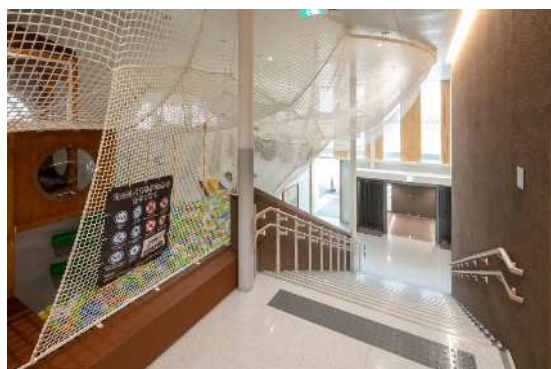
館内施設には、災害時の用途が表示



ホールには平常時は大型遊具が設置



防災詰所



2 階にはネット遊具



観光スポットをイメージした屋外大型遊具



文化複合施設整備特別委員会の委員
(アカリエの屋外にて)

【立山町元気交流ステーション みらいぶ（富山県立山町）】

1 みらいぶの概要

(1) 所在地：富山県中新川郡立山町前沢 1169

(2) 建物概要（構造等）

ア 敷地面積：3,374.56 m²

イ 建築面積：2,414.22 m²

ウ 延床面積：6,362.92 m²

エ 建築構造：鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造。最高高さ 18.50m

オ 階 数：地下1階、地上4階



(3) 主な施設

階数	主な設備
3 階	まちなか子育て支援室、子育て交流研修サロン、健康福祉課、保健センター、健診ホール、社会福祉協議会 他
2 階	大会議室1～3、調理交流室、多目的交流ロビー、中広間、町民ギャラリー、くつろぎ交流室、図書館（児童書）、幼老交流サロン
中 2 階	交流プロムナード、音楽交流室
1 階	イベント広場、観光交流・喫茶スペース、コミュニティホール駅ニワ、図書館（一般書）、地域情報交流サロン

(4) 運営体制：指定管理による運営（立山町商業協同組合）

(5) 開館時間：午前9時から午後10時まで

(6) 休館日：年末年始（12月29日から1月3日まで）

※3階の保健福祉エリアは土・日曜、祝日

(7) 駐車場：約150台（4時間まで無料。以降4時間経過毎に100円）

2 設立経緯等

保健福祉総合施設の整備は以前からの懸案事項であり、平成18年に「鉄道駅と連携した保健福祉総合センター」という基本構想をまとめるまでに、5年の歳月がかかっている。その後も建設場所の選定や施設の規模について意見が分かれたり、用地取得・補償に関する予算議決などが難航したが、平成22年3月議会で関係予算案が可決され、建設計画が動き出すこととなった。平成22年5月から平成23年2月で基本・実施設計の後、平成23年2月から1年3か月で施工し、平成24年5

月に竣工となった。

設計段階では、若者から子育て世代、高齢者まで幅広い世代の町民による計4回のワークショップで幅広い意見交換が行われた。ワークショップの中で、町民をはじめとした利用者と建物とをつなげるサポート組織として「チームみらいぶ」が結成され、町のホームページで「みらいぶろぐ」を開始し、「チームみらいぶ」のメンバーが、町の様々な方々に建物への期待や思いを伺いながら竣工までのカウントダウンを行い、まちとひと、ひとと建物のつながりを培っている。また、彫刻レンガ製作ワークショップを行い、町内外及び姉妹都市の愛知県犬山市からも参加者を募り、約1,000枚の思いが込められたレンガが建物前に敷き詰められている。

施設としては、図書館や交流センター、保健センターや健康福祉関係の窓口等の機能が複合した4層の建物で、駅の乗降客が利用する自由通路と施設のエントランスホールが同一空間となっており、気軽に立ち寄ることができる。

あるところでは子どもたちが走り回り、あるところでは高校生がグループ学習をし、あるところでは主婦が調理実習を行い、あるところでは高齢者が畳の間でくつろぐ、幅広い世代が集まり、元気に出会うことができる場所「じゆうに、べんりに、みらいぶ」をコンセプトとしている。

3 イニシャルコスト及びランニングコスト

(1) イニシャルコスト（建設費）

- ア 建設工事費：約 1,662,000,000 円
- イ 委託料（設計・監理業務）：約 75,000,000 円
- ウ 用地費・補償費：約 133,000,000 円
- エ その他（備品等）：約 51,000,000 円

（財源として、国の社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業）を約 674,000,000 円活用。また富山地方鉄道株式会社からの出資無し）

(2) ランニングコスト（令和5年度実績）

- ア 指定管理料：53,113,000 円
- イ 維持管理料：51,088,150 円



立山町の担当職員から説明を受ける委員

4 年間利用者数等について（令和5年度実績）

(1) 主な施設

施設名	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用料徴収金額 (円)
イベント広場	103	3,648	826,353
大会議室1～3	792	20,335	4,588,433
中広間	99	1,384	259,722
音楽交流室	181	955	479,446
交流プロムナード等	31	933	53,815

(2) 図書館

ア 年間来館者数：137,047人

イ 貸出利用図書数：116,439冊

5 主な特色・特徴

(1) イベント広場

90席の電動客席と250型の大型スクリーンを完備。可動式の壁を開放すると半屋外となり、検診車を収容できるほか軽トラ市やフリーマーケットなどにも利用されている。

(2) 交流プロムナード・音楽交流室

軽運動にも適した交流プロムナードデッキ、展示会やイベントなど多彩に使えるほか、高校生の学習スペースとしても利用されている。また、音楽交流室ではバンド練習ができる。

(3) 大会議室

広さ300㎡の大会議室は、テーブル席で最大200人を収容でき、大きな規模の講演会や懇親会に適している。また、可動式の間仕切りで3部屋に区切ることができるので、使用する目的に合わせて大きさを変えることができる。

(4) くつろぎ交流室

広間とサロンが一つになった空間となっており。広い畳張りの部屋からは立山連峰が望め、ゆっくりとくつろげる交流の場となっている。

(5) まちなか子育て支援室・まちなか交流サロン

楽しく遊べる遊具がそろうまちなか子育て支援室では、ベビママ相談・助産師による母乳相談なども行っている。また、まちなか交流サロンでは壁面にボルダリングができるように装飾されている。

(6) 図書館

館内の天井は5.5mもあり、ゆったりとした雰囲気となっており、1階に一般

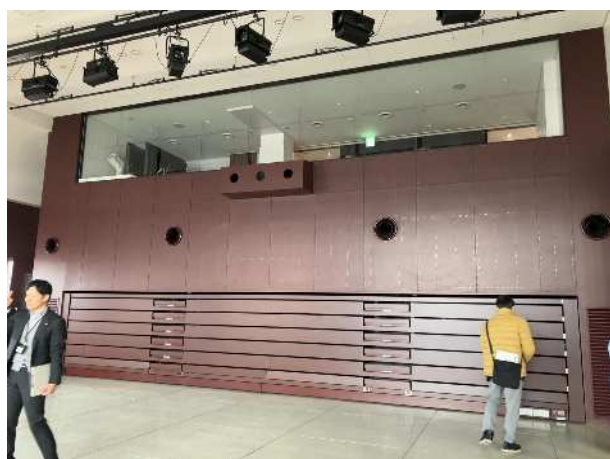
書と専門書、2階には児童書と幼児書がそろっており、あえて大人と子どものフロアを分けることで、子どもたちがのびのびと読書できるようになっている。

(7) マイナンバーカード対応予約本貸出ロッカー

内閣府・デジタル庁の「デジタル田園都市国家構想交付金」を活用し、全国で初めて「マイナンバーカード対応予約本貸出ロッカー」を導入している。貸出ロッカーは図書館ホームページから予約した本を、マイナンバーカードを読み取らせることで、閉館時でもロッカーから受け取ることができる。利用時間は電車の運行時間と合わせ早朝5時半から、夜の23時半までの広範囲な時間帯となり、通勤や通学など多様な生活スタイルに合わせて予約本の貸出が可能となっている。

(8) 様々なデザインの椅子

みらいぶ館内のいたるところにそれぞれデザイン、色、素材が異なったたくさんの椅子が配置されており、自分のお気に入りの憩いの場所を見つけてもらうアイデアとなっている。



イベント広場（電動客席と可動式の壁）



可動式の間仕切りがある大会議室



畳張りのくつろぎ交流室



天井の高い図書館



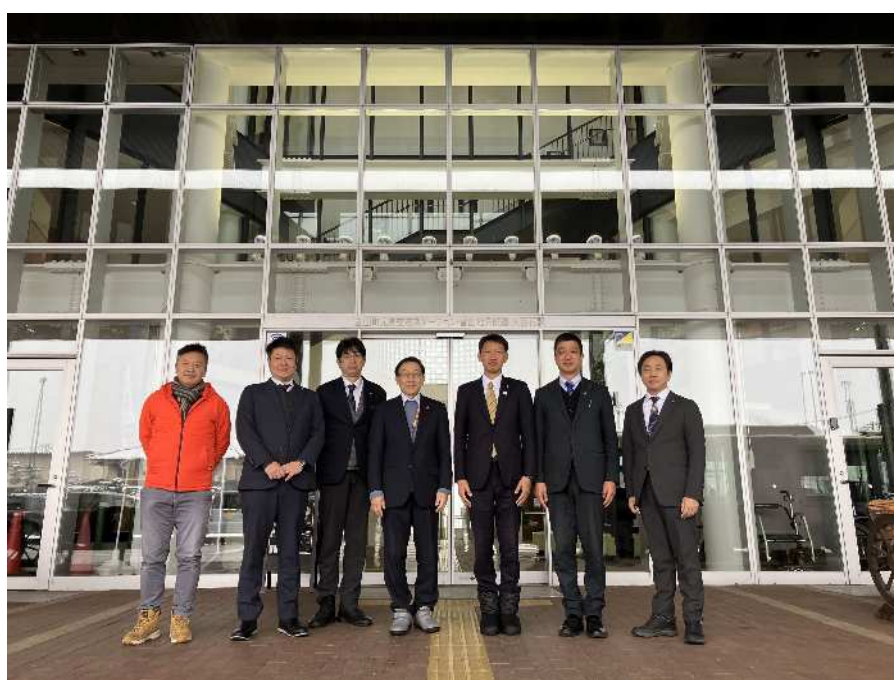
全国初のマイナンバーカード対応
予約本貸出ロッカー



イラストやメッセージが
描かれたレンガアート



様々なデザインの椅子



文化複合施設整備特別委員会の委員（みらいぶ出入口にて）

【視察を終えて】

まず、今回の視察を御対応いただいた富山市、立山町の職員及び指定管理者の皆様は心より感謝申し上げます。

視察を行った3つの施設について、まず「オーバード・ホール（中ホール）」は、可動式の客席を含め最大652席のホールで、隣接する築20年の大ホールのノウハウや経験が活かされた、利用者のアイディア次第で様々な可能性が広がる舞台空間であった。今回、平土間形式から通常形式への舞台転換を見学したが、最新式の可動席であることから、舞台転換は大掛かりで、舞台スタッフによるミリ単位での調整や作業が必要であり、丸1日を要するとともに、ホール利用の約9割が通常形式で、平土間形式は1割程度であることなど、可動席の導入だけでなくその運用方法についても様々な課題を認識することができた。

また、音響面においては、隣接する大ホールがオーケストラやオペラ、中ホールが演劇などを主に想定しており、利用目的を住み分けて音響設備を整備していたことが印象的であった。

コスト面では、金利や物価高騰の影響を受けながらも、施設の駐車場は近隣の市営駐車場を活用することとして整備しない等、割り切る部分は割り切ることで、15年間の維持管理費を含めて総事業費78億円余のイニシャルコストで建設されており、この点も感銘を受けた部分の一つであった。

次に「アカリエ」では、あらゆる自然災害に対応できる「防災センター」と屋内外の遊具による遊び場や、子育て世代を中心とした交流の機会を提供する「子育て支援センター」という二面性を持ち、施設の至るところに災害時の役割・用途が表示されており、利用する子どもたちが遊びを通して防災を学び、自助、共助の意識を醸成していけるように工夫が図られていた。また、国や県の補助金や交付税措置等が有利な地方債を活用し、省エネと創エネにより、エネルギー消費量をゼロ（ZEB）にする地球にやさしい「環境施設」として、建設されており、年間を通して一定の温度となっている地中熱を活用した空調や床暖房など先進的な設備が整備されていた。

防災センターに設置されている350席のホールは、旧町民会館の750席から、成人式の出席対象者を参考に席数を減らし整備していること、貸し会議室については近くにある別施設（みらいぶ）に集約し、あえて整備をしなかったことなど、施設の目的や役割を的確にとらえて整備している点に関心深く参考となった。

最後に「みらいぶ」は、老朽化し、各所に点在していた公共施設を、町の中心であり公共交通の要である駅の敷地に集約・整備し、町民への利便性・サービスの向上、施設の維持保守コストの低減とともに、町民をはじめとした多くの人々が立ち寄る地域の交流拠点として整備された施設であった。複合している富山地方鉄道は、

日中は1時間に1本程度の運行ではあるが、その待ち時間に駅直結の図書館等を有効に利用しているという話を伺い、駅との複合施設ならではの利点があると感じた。

このほか、ワークショップ等で作成された様々なイラストやメッセージが描かれたレンガアートは前述のアカリエも含めて、施設の周りの舗装に活用されており、自分たちの施設として愛着を持ち、地域の歴史や記憶へつながる「地域の施設」として確立されるように工夫が図られていた。

今回の視察を行った富山市と立山町は、青梅市と人口や予算規模は異なるものの、駅周辺エリアを拠点としたコンパクトシティ施策の一環として整備されており、人々の交流を生み出すことでにぎわいを創出し、まちの活性化に寄与していた。また、その複合施設の建設手法や運営手法には様々なアイデアが散りばめられており、加えてオーバード・ホールの大ホールと中ホール、立山町でのアカリエとみらいぶでは、それぞれの役割・目的を住み分けていること等、今後の施設の規模やコストへの議論に際し、参考になるものであった。前回の埼玉県の行政視察から共通して言えることは、「よい施設をつくること」だけにとらわれず、参考にすべきことと参考にできないことを精査し、「何のために、何を中心として、この施設をつくるのか」が重要であり、当委員会としては、「百聞は一見に如かず」の諺のとおり、今後も引き続き多くの先進施設を調査・研究し、知見を深めていくこととしたい。

(文化複合施設整備特別委員長 寺島 和成)